理科特別講座　　HR 掲示

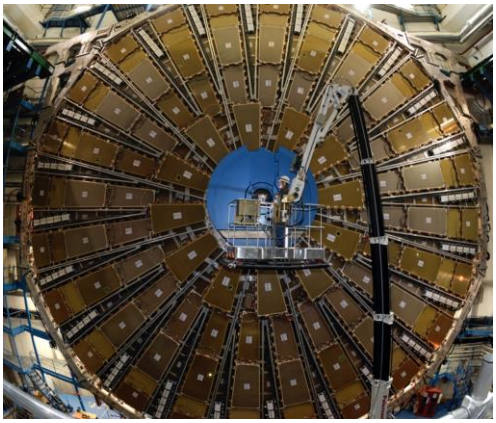
ＨＲ掲示

演題　「ヒッグス粒子のみつけかた
―　究極の大小に向き合う物理学と国際実験」

日時：令和 4 年 2 月 1 日(火) 15:30～17:00

場所：4F 階段教室

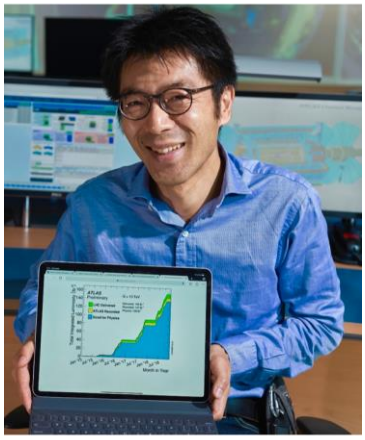
講師：石野　雅也 先生



素粒子＝究極の小さな世界について知っていること？
宇宙＝究極の大きな世界について知っていること？
その間には、どの様なつながりがある？
それらを科学的に、実験的に理解するための手段？
大規模な国際共同実験の実際のところは？
「物理学をする」って…　どういうこと？

（本当はよく知りませんが）紀元前のギリシャ時代から、科学的な思考をする人々は、物質の「素（もと）」となる存在は何？　という問いを立て、それなりの理屈をつけて（？）、信じるところの正体を語っていました。　時は過ぎ、様々のツールを手にした現代に生きるワタクシも、同じ疑問に対する回答を、そして、そこから派生する宇宙の成り立ちに対する想像（妄想？）を成長させ続けています。　究極の大小の世界について知っている（つもり）のことや、実際の国際実験の現場の様子を、語り 共有する時間を 皆さんと一緒に持てたらウレシイです。
[講義時間をミニマムにして、なるべく、皆さんと話せる時間を長くしたいです]

石野　雅也　先生のプロフィール



東京大学　素粒子物理国際研究センター　教授
慶應義塾大学　理工学部　物理学科　卒業
所属：　京大（大学院）→ 東大 → KEK → 京大 → 東大
居住地：　東京/フランス/京都
研究対象：　宇宙（の様なもの）ができて最初に起きたこと、
　　時空の正体
これらを実験的に（実証的に）知ることができたら最高！
と思いながら、日々、世界中の仲間と一緒に活動しています。